

南無阿弥陀仏は
私のいのち



平成 29年
3月号

NO.
470

〒110-0012 東京都台東区竜泉 1-20-19
発行所 真宗 佛光寺派 西徳寺
TEL 03-3875-3351 FAX 03-3875-6796
<http://saitokuji.tobihiro.jp/>
発行人 脇阪 義幸
印刷 日生印刷(株) 03-6863-3263



次男が高校の推薦入試に合格した時に一言、「これでやっと自由の身になった！」と安堵の声を洩らした。この一年間、本人なりに受験勉強に没頭してきただけに、心底から突き上げてきた言葉だったと思う。

自由とは他の者から拘束・支配を受けず、自己自身の本性に従うことを意味するが、人間社会においては不可能に近い事柄ではないか。この世に誕生するということは、親

子関係の中に生を受けることであり、家族・師弟・同僚・学友など、様々な関係性の中に営まれるのが人生であり、お互いに影響され、束縛し合って暮らしているのが事実ではないか。

經典に「融通無碍ゆうつうむわいげ」という言葉がある。一般的に融通とは「金を融通する」「あの人は融通が利かない」など、物事のやりくりを指す言葉として使われるが、仏典では「碍さまたげがなく、通じ合う世界を開く」とある。

不自由

人間は、これまで積み上げてきた経験や知識によってつくり出した物さしを基に、自分の都合や価値観を守るために、他人に融通を利かせることで自由を勝ち取るうとする。しかし、自分の都合を優先することで逆に融通が利かなくなる。不自由を感じる心とは、自由（融通）を求める我が身がつくり出す世界だと気づかせるのが無碍の一道（ナムアミダブツの道）だと教えられる。

（木村 専正 記）

去る1月22日(日)、午後3時より西徳寺本堂におきまして、評議員会新年会が開催されました。来賓として総代会から2名、会員20名参加のもと盛大に執り行われました。

竹内乾一郎会長からは、「弥陀の五劫思惟の願をよくよく案ずれば、ひとえに親鸞一人がためなりけり」というお言葉を引かれ、仏の教えは私のために説かれていることを肝に銘じて、これからも聞法活動に邁進していきたいと述べられました。

脇阪住職からは新年の挨拶があり、4月からお願いしている『維持会費』について説明があり、第1会館をはじめ南側水場の老朽化に伴う改修工事を行う旨を報告されました。

その後、会場を上野・伊豆栄「不忍亭」に移して懇親会が開かれ、土肥社長にご挨拶を賜り、美味しいお料理をいただきながらカラオケでも大いに盛り上がり、とても賑やかなひとときを過ごすことができました。

(木村 専正 記)



評議員会新年会 報告



脇阪 義幸 住職



竹内 乾一郎 会長

西徳寺保全工事 進行状況のご報告

1月より修復工事がスタートしました。一部、進行状況の写真を掲載いたします。

工事は安全第一に行いますが、期間中は何かとご不便とご迷惑をおかけいたします。ご理解とご協力を頂きますよう宜しくお願い申し上げます。



第1会館外装



3号地前 南水場

親鸞さんのことば

かなしきかなや道俗の

良時吉日えらばしめ

天神地祇をあがめつつ

ト占祭祀つとめとす

『正像末和讃』

松井憲一

親鸞聖人は、「道を求める人も俗を生きようとする人たちも、良い時良い日に執われて、天の神や地の神を崇めつつ、占いや、お払いや、祀りごととのみ走る。なんと悲しいことか」と言われます。このご和讃を誦すると、親鸞聖人の七百回御遠忌の講演会で、金子大榮先生が「全国津浦浦々、どこに行っても、真宗門徒は、縁起を担がないと言われたときに、本当に御遠忌が勤められたと言えるのでありましょう」と言われたことを思い出します。

お釈迦さまが、覚られた縁起の法は、わたしも含めてすべてのものが、それ自身で存在するものではなく、縁によって成り立っている事実を

明らかにする教えです。だから、縁起の法は、「ご縁、ご縁、みなご縁」と、現在の自分を過不足なくあるがままに頂ことを教えるのであって、縁起を担いで自分の欲望をかなえようとする意味の言葉ではありません。

「大安も 仏滅もない 救急車」という、いのちの事実のうちにありながら、退院の時は平気で良い日を選ぼうとする。この日は仏滅だから結婚式は大安にしよう、明日は友引だから葬儀を日延べしようという。建築の時には方角をいい、子どもの名付けには画数を問題にする。こんな事は気にかける必要もない迷信だといいつつも、慣習に流されて行うのは、「まさか」がおこったときの、気休めがほしいからでしょう。

しかし、自分の苦しみや不安を取り除こうとして、「天神地祇をあがめつつ、ト占「ウラナイ」祭「ハラエ」祀「マツリ」つとめとす（「は」真宗聖典「佛光寺にある・左り仮名）」ことは、ト占祭祀のイエスマンになることであって、迷信の虜になることでありましょう。聖人が「悲しいことだ」といわれるのは、除災招福を願ってト占祭祀を頼る

ことは、現在の自分を頂くのを忘れて「お守りを 集めて努力 しない人」というような人を生みだしたり、思うように事が運ばないと「厄ばらい したのにクジで自治会長」「大凶は 賽銭箱に 戻しとく」と頼んだり引いたりした自分の姿を省みることもなく、原因を外に求めて堂々巡りをして、ますますちがあかないようにしていくからでありましょう。

聖人がいわれる「かなしきかなや」には、悲しい事実に向き合って、目を覚まさせるはたらきがあります。縁起を担ぎながら、「これでいいのだろうか」という心の奥底の叫びに、応答しようとする響きがあります。『教行信証』には、「悲しき哉、愚禿鸞（仏弟子に値しないおろかももの）」「悲しき哉、垢障の凡愚（煩惱まみれの障り多きただびと）」といわれて、悲しき者は自分でと領かれています。聖人は、この悲しみの繰り返しの中で、阿弥陀仏の本願の広大さを感じ取り、「ただ念仏」の生活を深めていかれました。

「幸せを 小銭で願う 初詣」「年一度 行くだけなのに 初詣」というような在り方のわれらは、

お念仏を申して、阿弥陀仏の本願を聞き抜くよりほかに道はありません。「聞」の字は「門」に「耳」が入るのですが、門をくぐって聞法し本願が聞こえてくるようになると、耳に心ができて恥じいるばかりになりません。恥じ入る心が育てば、「良時吉日えらばしめ 天神地祇をあがめつつ ト占祭祀つとめとす」る生活が、「かなしきかなや」と聞こえて、自我拡大の方向が自ずから解放されていくのでありましょう。ちなみに真宗の寺院では、お札・お守りは発行しておりません。



山門の言葉

歌は慰めだけでいいのか

作詞家 阿久 悠



これは平成十九年に逝去された作詞家・阿久悠さんの言葉である。阿久悠さんはピンククレディの歌詞の他、「北の宿から」「青春時代」など多くの詞を作られた方である。

阿久悠さんは幼い頃に戦争を体験している。その後日本は敗戦、復興作業が進むにつれて見たこともない建物やクルマ、電化製品が街に溢れていく、そうした激動の時代の中で物書きになろうと決意をした。そして宣弘社という広告代理店に就職し、いよいよ作家修行が始まった。

やがて独立して作詞家となつていく中で、阿久悠さんは歌には一体何ができるのだろうと考え始めた。それまで歌は慰めの役割を果たしてきた。戦時中は士気を高め、慰めるために歌があつた。しかし、今は戦時中ではない。単に慰めだけでいいのか。もつと別の表現が必要ではないのか。この問いが後の作詞家人生に大きな原動力となったのである。

私達はすぐに現状に満足して腰を下ろしてしまいがちだが、お聖教ではそれを難行道なんぎやうどうと説かれる。難行道とは自力をたよることであり、それはすぐ

に歩みが止まってしまう道である。そうではなくて、仏に依る易行道いぎやうどうを勧められる。それは決して歩みを止めない歓喜に満ちた生活である。

せつかく問いを起こしても自分の力だけではすぐに歩みを止めてしまふ。そうさせなかつたのは歌を聞いた方々の声であつた。

例えば、「女心の未練でしょう」と言い切つた歌詞がある。この曲を発表した後、「女心の未練でしょうか」の間違ひではないか、と問合せがあつたのだという。思いもよらぬ反響であつた。この声がきっかけとなつて、それではこの表現はどうか、これではどうかと聞き手とのキャッチボールが始まつていったのである。

確かに作者の欄には阿久悠さんの名前が載る。しかし、実は楽曲を聞いた方々との共同作業だと感じるのである。これこそ喜びではないだろうか。本当の喜びとは自分だけで味わうのではなく、人々と道を尋ねていくことなのだ。そう阿久悠さんを通して感じている。

(高橋 淳 記)

日誌

- | | | | |
|-------|--------------------------------|-----------|----------------------------------|
| 1月14日 | 社交ダンス練習会 | 1月26日 | 『唯信鈔』に聞く 講師 宗 正元師 |
| 1月17日 | 責任役員会・総代会 | 1月27日・28日 | 宗祖忌 |
| 1月21日 | 定例聞法会、混声合唱団「エコー」練習 | 1月28日 | 社交ダンス練習会 |
| 1月22日 | 評議員会新年会(参加者19名) | | 混声合唱団「エコー」練習 |
| 1月23日 | 東京教区新年会
(プリンスホテル高輪 脇阪・大谷参加) | 2月4日 | 社交ダンス練習会 |
| | 台東区合唱連盟 新年会
(浅草・大黒屋 高橋参加) | 2月5日 | 混声合唱団「エコー」練習 |
| | | | 城東ブロック会聞法会
(本八幡・うえだ別館 参加者21名) |
| 1月24日 | 仏教青年会『歎異抄』に聞く 講師 宗 正元師 | 2月7日・8日 | 中興忌 |

第 329 号

婦人会専用口座：
名義 西徳寺婦人会
番号 10030 239 82431

～法語カレンダーに聞く～ (2017年1月)

「無明の闇を破するゆえ 智慧光仏と名づけたり」

無明とは、阿弥陀仏の光が照らし出す我が身のすがたであると教えられます。しかし今口、容易に世の中の情報や知識を得られる私にとって、自分自身が闇の真っ只中にいるなどとは夢にも思わない。

平面的に描かれた絵を立体的に見せるために重要なのは影である。影を描くことによって、物に光が当たっていることが表されている。光が影を証明し、また影が光を証明する、まさに表裏一体の関係なのである。

蓄えた情報や知識に執着し、無意識の内に自分を正当化して生活している。そういう私たちの生き様を、親鸞聖人は無明という言葉で言い当ててくださっている。

無明の闇が破られるとは、闇が無くなるのではなく、光が影を証明するがごとく、阿弥陀仏の智慧光によって闇が闇としてはっきり知らされる。阿弥陀仏の光明に出遇うとは、迷いや悩みのただ中を歩いていく力(意欲)を賜ることではないだろうか。(蓮井 邦宗)

次回聞法会のご案内

日 時 平成 29 年 3 月 15 日(水) 午後 1 時～ 3 時
場 所 西徳寺 星月の間
法 話 法語カレンダーに聞く(真宗教団連合カレンダー)
「一念慶喜するひとは 往生かならずさだまりぬ」
最高顧問 大谷 義博
蓮井 邦宗

婦人会総会・懇親会のご案内

日 時 平成 29 年 4 月 19 日(水) 午前 11 時
場 所 総 会：本堂
懇親会：梅檀の間
会 費 無料
締 切 4 月 12 日(水) お弁当予約のため、必ず申し込んで下さい
年会費 3,000円

ひとこと

弥陀に助けられ^{そつじゆ}卒寿を越えることができました。当然のことですが、体の機能は衰え、長年大きな楽しみにしていた婦人会に出られなくなり残念です。

今では頭の体操(パズル等)を楽しみにしておりますが、悩みはカタカナ語がよくわからず、時代遅れの自分だと痛感させられています。(木原 麗子)

掲示 板

平成29年3月

- 3日(金) 午後4時 総代会
 4日(土) 午後1時 社交ダンス練習会
 午後2時 評議員会定例役員会
 午後3時15分 混声合唱団「エコー」練習
 午後5時45分 同行会修習式「現代の聖典」に聞く
 法話 高橋 淳
- 7日(火) 午後7時 仏教青年会レクレーション
 「ダーツ&ビリヤード大会」
- 8日(水) 午前10時 仏具磨き
 10日(金) 午後1時 東京教区研修会(新横浜グレイスホテル)
 11日(土) 午後1時半 定例聞法会
 12日(日) 午後2時 城北ブロック会聞法会(王子・北とぴあ)
 午後3時15分 混声合唱団「エコー」練習
 15日(水) 午後1時 婦人会聞法会
 17日(金)～23日(木) 春季彼岸会
 22日(水) 聖徳太子奉讃会・本山差向布教・永代経
 布教使 和蔵 順人師
 『唯信鈔』に聞く 講師 宗 正元師
- 24日(金) 午後1時半

皆さんも一緒に歌いましょう! (西徳寺混声合唱団「エコー」演奏会のご案内)

3月22日(水) 11時半～ 西徳寺 本堂

指揮 古澤利人 ピアノ 金澤麻里子

1. 恩徳讃 2. 衆会 3. 春へのあこがれ
 4. 御身を愛す 5. ラルゴ
 6. 真宗宗歌

仏教歌の他に、一度は聞いたことがあるかと思う外国の曲を歌います。法要と併せて、たくさんのご参集お待ちしております。(高橋 淳 記)



同行会新年会

1月28日(土)午後5時半より、18名の参加をもって同行会新年会が開催されました。

本堂にてお勤めの後、安藤会長と脇阪住職よりご挨拶を頂きました。その後、場所を移しての懇親会では、普段は見えない会員の素顔に触れ、楽しく賑やかに過ごしました。最後に今年の抱負をそれぞれが語り、お聞きとなりました。(大橋 伊知郎 記)

編集後記

2月8日～15日の8日間、本山差向布教のため、長崎市内を中心に5ヶ寺を巡りました。長崎では珍しく雪が降る天候の中、大勢のご門徒さんと出遇わせていただき、お念仏のみ教えを聴聞させていただきました。

法話が終わったとき、ご門徒の一人が「いつの日にかまた、お目にかかりましょう」と話しておられました。はからずもご法座でお会いしたばかりなのに、再会を望む声をいただき、とても心温まるご縁となりました。(主任 木村 記)

西徳寺ホームページアドレス:

HP <http://saitokuji.tobihiro.jp/>

ゆうちょ銀行お振り込み口座 00120-0-80670 名義 西徳寺

※「えこお」に対してのご意見・ご感想をお寄せ下さい。
(メールでも結構です)

✉ saitokuji@ce.wakwak.com

えこお志お礼

大阪府 最勝寺 様
 文京区 官林 以智子 様
 葛飾区 宮崎 秀夫 様
 草加市 高柳 幸市郎 様
 葛飾区 札木 良明 様
 江戸川区 形屋 顕弘 様
 大阪府 脇阪 千鶴江 様
 台東区 小林 浩子 様
 台東区 大林 藤枝 様
 江東区 西村 吉正 様



ご浄財を頂戴いたしましてありがとうございます。
ご芳名の掲載をもってお礼とさせていただきます。

聞法会だより 城東ブロック会

2月5日に本八幡・うえだ別館において城東ブロック会聞法会が開催され、21名の方が参加されました。加藤廣会長からは「念仏の教えはそう簡単に信じられることはないと思う、だから聞法を重ねるんだと思います」と述べられ、評議員会会長である竹内乾一郎さんからは、人によって、同じ天気でも見方が変わるというお話を頂きました。

脇阪住職からは極楽往生の道を聞くのが聞法であると力

強いお話をいただき、初参加の方を含めて皆様熱心に聴聞されました。

(高橋 淳 記)

